

# 泊発電所

## 火山影響評価のうち立地評価に係る 審査資料における写真の掲載誤りについて

令和5年6月21日  
北海道電力株式会社

# 泊発電所 火山影響評価のうち立地評価に係る 審査資料における写真の掲載誤りについて

## 【掲載誤りの概要】

- 泊発電所火山影響評価のうち立地評価に関しては、2023年5月17日ヒアリングを踏まえた資料修正中に、火山灰分析（顕微鏡観察）用に採取した試料状況写真に掲載誤りがあることを確認した。
- この誤りは、第1106回審査会合〔資料1-2〕（2023年1月20日）に掲載（P3参照）されており、この前後のヒアリング資料※においても掲載されている。
- 2023年5月17日ヒアリングを踏まえた資料修正中に、同じ状況写真が掲載されている疑念が生じたことから確認を行った結果、照岸1-3ボーリング地点における「採取試料（粉砕後）」と同じ写真（P4参照）を照岸1-5ボーリング地点の頁に誤って掲載していたことが判明した。
- なお、当該事象が生じた照岸1-5ボーリング地点においては、適正な試料を用いて顕微鏡観察を実施していることを確認している。
- これまで提示している泊発電所火山影響評価に関する審査資料について、これ以外に同様な誤りがないかを、報告書等の確認を実施した結果、該当する誤りは確認されなかった。
- この結果を受け、2023年6月12日ヒアリング資料（同年6月5日提出資料）においては、適正な写真を掲載する修正を行った上で、修正を実施している旨を注釈に付している（P5参照）。

## 【掲載誤り写真の位置付け】

- 写真の掲載誤りを確認した頁（P3参照）は、洞爺火砕流本体の分布を検討する取り組みとして、既往のボーリング調査の柱状図に“軽石”と記載されている白色粒子を対象に実施した火山灰分析（顕微鏡観察）について記載した頁である。
- 掲載誤りである右下段の写真は、顕微鏡観察を実施するに当たっての前処理として、試料（白色粒子）を粉砕した状況に掲載したものである。

※ヒアリング資料（補足説明資料）（2022年8月10日資料提出，同年9月14日ヒアリング実施）

ヒアリング資料（補足説明資料）（2022年10月25日資料提出，同年11月17日ヒアリング実施）

ヒアリング資料（補足説明資料）（2022年12月5日資料提出，同年12月15日ヒアリング実施）

ヒアリング資料（補足説明資料2）（2023年4月21日資料提出，同年5月17日ヒアリング実施）

## 掲載誤り箇所(照岸1-5ボーリング)

○第1106回審査会合[資料1-2](2023年1月20日)

278

### 4. 積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

278

#### ⑥ 照岸地点-追加火山灰分析・薄片観察結果 照岸1-5ボーリング(3/12) -

- 柱状図において、層相を「火山灰質シルト」としている深度11.05~11.45mについては、柱状図記事に「径0.2cm以下の軽石片混じる」との記載がなされていることから、R3.10.14審査会合以降、コア再観察を行った。
- 再観察の結果、“軽石片”は、白色粒子として識別されたことから、軽石であるか否かを確認するため、当該粒子を対象に、火山灰分析を目的として試料を採取した。



- “軽石片”に対応する白色粒子を対象として試料を採取したが、顕微鏡観察の結果、屈折率測定及び主成分分析に供する火山ガラスは確認されない。



採取試料

孔口標高:38.10m



□ : 白色粒子採取範囲

コア写真(深度9~12m)(2010年4月撮影)



採取試料(粉碎後)

#### 【掲載誤り箇所】

- 照岸1-3ボーリング地点における「採取試料(粉碎後)」と同じ写真(P4参照)を照岸1-5ボーリング地点の頁に誤掲載していた。

## 照岸1-3ボーリング

○第1106回審査会合〔資料1-2〕(2023年1月20日)

244

### 4. 積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

244

#### ⑥ 照岸地点-追加火山灰分析・薄片観察結果 照岸1-3ボーリング(3/22) -

- 柱状図において、層相を「火山灰質シルト」としている深度4.95～5.90mについては、柱状図記事に「径0.5cm以下の軽石片がしばしば混入する」との記載がなされていることから、R3.10.14審査会合以降、コア再観察を行った。
- 再観察の結果、“軽石片”は、白色粒子として識別されたことから、軽石であるか否かを確認するため、当該粒子を対象に、火山灰分析を目的として試料を採取した。



- “軽石片”に対応する白色粒子を対象として試料を採取したが、顕微鏡観察の結果、屈折率測定及び主成分分析に供する火山ガラスは確認されない。



採取試料

孔口標高:25.75m



□ : 白色粒子採取範囲

コア写真(深度3~6m)(2010年4月撮影)



採取試料(粉碎後)



## 掲載誤り修正後 (照岸1-5ボーリング)

○ヒアリング資料 (補足説明資料2) (2023年6月5日資料提出, 同年6月12日ヒアリング実施)

289

### 5. 【敷地近傍 (Ⅲ)】積丹半島西岸における洞爺火砕流堆積物の有無に関する検討

289

#### ②-7 照岸地点 (照岸1-5ボーリング) (3/12)

一部修正 (R5/1/20審査会合)

- 柱状図において、層相を「火山灰質シルト」としている深度11.05～11.45mについては、柱状図記事に「径0.2cm以下の軽石片混じる」との記載がなされていることから、R3.10.14審査会合以降、コア再観察を行った。
- 再観察の結果、“軽石片”は、白色粒子として識別されたことから、軽石であるか否かを確認するため、当該粒子を対象に、火山灰分析を目的として試料を採取した。



- “軽石片”に対応する白色粒子を対象として試料を採取したが、顕微鏡観察の結果、屈折率測定及び主成分分析に供する火山ガラスは確認されない。



採取試料

孔口標高:38.10m



□ : 白色粒子採取範囲

コア写真 (深度9～12m) (2010年4月撮影)

【適正な写真へ修正】



採取試料 (粉碎後) ※

※R5.1.20審査会合資料においては、採取試料 (粉碎後) の写真として、照岸1-3ボーリングの火山灰質シルト (深度4.95～5.90m) から採取した試料の写真を誤掲載していたことから、今回、適正な写真を掲載した。